
大学教育学会ニュースレター

No.84 2010.4.16

大学教育学会 (*Liberal and General Education Society of Japan*)

事務局 : 桜美林大学淵野辺キャンパス内

〒229-0006 神奈川県相模原市淵野辺 4-16-1

TEL/ FAX : (042) 704-7014

郵便振替口座 : 00120-4-178891 大学教育学会

e-mail : ungakkai@gmail.com URL : <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

「大学教育学会第32回大会をお迎えするにあたって」

大学教育学会第32回(2010年)大会
大会実行委員長 弓削 俊洋(愛媛大学理事・副学長)

人口減に伴う入学者の確保難、景気悪化による就職難、多様化する学生に対する教育の質保証への要求の高まりなど、近年の大学を取り巻く状況は一層厳しさを増しています。さらに、先日、国立大学の第一期中期目標期間にかかる教育研究評価が発表され、それに基づいた運営費交付金の評価反映分の内訳が新聞紙上で報道されました。同報道では、評価自体の公正さに対する疑問(目標設定による評価の矛盾、教育研究よりも経営の効率化(経費削減等)に置かれたウエイト)も表明しつつ、旧帝大など大規模な総合大学は相対的に上位にある一方、教員養成系の単科大や地方大はおおむね評価が低く、大規模大学と小規模大学あるいは地方大学との格差の広がり指摘されています。いわゆる小規模大学や地方大学においては、ますます自らの大学の存在意義を確かなものにすることが求められています。

いずれにせよ、今大会の企画委員長の濱名先生も仰っているように、全ての大学に対してその「存在意義」が厳しく問われているという現状にあり、そのような中、大学教育学会第32回大会の総合テーマとして「大学の存在意義(レゾナードール)」を設定したことは、極めて時宜にかなったものであると思われま

す。今大会では、愛媛県という地方での開催にもかかわらず、ラウンドテーブル数14題、自由研究発表数は78題と、首都圏で開催された昨年の大会にも全く引けを取らない盛況ぶりを呈しており、主催校としてこれほど嬉しいことはございません。

また、内容面においても、小笠原正明会長のご講演、多様なテーマによる研究発表、「地域社会と大学」などとともに、若手研究者交流会の開催や自由研究枠の拡大等、これまでの大会にはなかった企画も用意させていただきました。発表者と参加者全員の熱いご議論によって、大会が実り多きものとなりますことを心から願っております。

皆さまの熱意にお応えすることができるかどうか心配ではございますが、教職員あげて運営にあたりたいと考えております。また、「学生中心の大学」を謳っている愛媛大学ならではの、学生による「おもてなし」もご堪能いただければ幸いです。さらには、3000年の歴史を誇る「日本三古湯」の一つであり、かの夏目漱石も足繁く通った「道後温泉」で日頃の疲れを癒しつつ、心ゆくまでご議論いただきたいと思っております。

なお、今大会の企画にご尽力いただいた常任理事会及び企画委員会の諸先生方、運営・開催にあたる大会実行委員会をはじめとする関係の諸先生方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

大学教育学会 第 32 回 (2010 年) 大会

総合テーマ「大学の存在意義（レゾンデートル）」

開 催 要 領

1. 開催日時及び会場

期日 2010 年 6 月 5 日（土）～6 日（日）

会場 愛媛大学城北キャンパス 共通教育講義棟、南加記念ホール、グリーンホール

(松山市文京町 3 番) (市内電車環状線：赤十字病院前下車：徒歩 3 分)

ひめぎんホール (松山市道後町 2-5-1) (市内電车道後温泉行：県民文化会館前下車)

2. 大会日程

第 1 日：6 月 5 日（土）

8:30 9:00 9:30 11:50 13:10 15:30 16:00 17:00 17:20 18:20 18:30 20:00

受付	新 会 員	自由研究発表①	昼食	自由研究発表②	移 動	総会	学長 挨拶	基調講演	移 動	懇親会
----	-------------	---------	----	---------	--------	----	----------	------	--------	-----

第 2 日：6 月 6 日（日）

8:30 9:00 12:00 13:00 15:40 16:30

受付	シンポジウム	昼食	ラウンドテーブル	閉会
----	--------	----	----------	----

第 1 日 6 月 5 日（土）

8:30～ 受 付

9:00～ 9:20 新会員及び初めて参加される方のためのオリエンテーション
※オリエンテーションでは、学会の新会員及び初めて学会大会に参加される
方々を歓迎し、本学会の理念、学会大会の意義等の簡単なガイダンスを行
います。 (共通教育講義棟 講義 12 教室)

9:30～11:50 自由研究発表① (140 分)

11:50～13:10 昼 食

13:10～15:30 自由研究発表② (140 分)

15:30～16:00 移 動 (バス・徒歩にて ひめぎんホールへ)

16:00～17:00 総 会 (ひめぎんホール)

17:00～17:10 学長挨拶 (ひめぎんホール)

17:20～18:20 基調講演 小笠原正明 (ひめぎんホール)

18:20～ 移 動 (ひめぎんホール 2 階 真珠の間へ)

18:30～20:00 懇親会 (真珠の間)

第 2 日 6 月 6 日（日）

8:30～ 受 付

9:00～12:00 シンポジウム (南加記念ホール・グリーンホール)

12:00～13:00 昼 食

13:00～15:30 ラウンドテーブル (共通教育講義棟)

15:40～ 会長閉会挨拶・次期会場校挨拶 (南加記念ホール・グリーンホール)

▲ 関連行事

6月4日（金）

16:00～ 理事会（松山全日空ホテル4F ルビーの間）

18:30～ 理事会懇親会（松山全日空ホテル4F ダイヤモンドボールの間）
（松山市一番町3-2-1）

6月4日（金）

16:00～ **若手研究者交流会**（愛大ミューズ アクティブ・ラーニング スペース2）

ファシリテーター：愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室 助教6名

「共に描くこれからの大学教育・研究 with 『ワールド・カフェ』」開催！

今こそ対話の時

昨今、大学が対峙する課題は複雑かつ多様化しており、その未来は、明るいとは言いがたいでしょう。しかし、そのような状況だからこそ、これからの大学教育を担う若手研究者が向き合い、教育・研究について夢や希望を語り、それぞれの知識と経験を用いながら一緒に考え始めることが求められています。そこに「協創」の意識が生まれ、やがて大学における「革新のうねり」をもたらすことができるのではないのでしょうか。

本交流会では、本物のカフェのように自由なムードの中で、「これからの大学教育・研究」をテーマに、教育・研究の手法や実践例、また悩みや疑問について、そして若手ならではの大学教育学会への期待に関して、集中した対話を行います。一人でも多くの方にご参加いただくことで、より創造性に富んだ場にする可以考虑しています。あなたのご参加をお待ちしています！

「ワールド・カフェ」とは：

「知識や知恵は、会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考えに基づいた手法

こんな人に是非参加していただきたいと考えています。

- ・若手研究者（自称）
- ・他の研究者の教育・研究実践例を知りたい
- ・悩みを相談したい
- ・「お題目」でなく、真の交流をしたい
- ・大会参加を裏切り多量なものにするために、事前に知識の共有や関係作りを行いたい
- ・立場や分野の異なる研究者と一体感や期待感を共有したい

18:30～ **若手研究者懇親会**（愛媛大学学生会館2F リーセス）

（愛媛大学城北キャンパス 松山市文京町3番）

6月5日（土）懇親会に参加される方の参加費：¥1,000

参加されない方の参加費：¥3,000

第1日 6月5日(土)

8:30～9:00 受付

9:00～9:20 **新会員及び初めて参加される方のためのオリエンテーション**

※オリエンテーションでは、学会の新会員及び初めて学会大会に参加される
方々を歓迎し、本学会の理念、学会大会の意義等の簡単なガイダンスを行
います。
(共通教育講義棟 講義12教室)

9:30～11:50 自由研究発表①(140分)

部会につきましては、申込み時に選択された演題種別をもとに企画委員会で調整させていただいて
おります。ご希望通りの種別に振り分けられていない場合もございますが、ご了承くださいませよう
お願い申し上げます。

部会1 学生とキャリア

司会：山田礼子(同志社大学)・葛城浩一(香川大学)

会場：共通教育講義棟 講義22教室

9:30～9:50 理系大学生の進路意識—医療系分野に着目して

小島 佐恵子(北里大学)

9:50～10:10 「短期大学の学生調査—キャリア教育・職業教育の探究—」その1

安部 恵美子(長崎短期大学)

10:10～10:30 「短期大学の学生調査—キャリア教育・職業教育の探究—」その2

河野 睦美(長崎短期大学)

10:30～10:40 休憩

10:40～11:00 FD/教育改善とキャリア教育を「大学生活」で接続する2 —学生研修の成果と課題—
溝上 慎一(京都大学)

11:00～11:20 体育大学生に対するキャリア・カフェの試み

影山 陽子(日本女子体育大学)

11:20～11:50 総合討論

部会2 学士課程教育①

司会：濱口 哲(新潟大学)・前田早苗(千葉大学)

会場：共通教育講義棟 講義23教室

9:30～9:50 四国学院大学の初年次教育カリキュラムにおけるキャンパスコミュニティの形成

宮橋 小百合(四国学院大学)

9:50～10:10 四国学院大学におけるピア・リーダーの養成

清水 幸一(四国学院大学)

10:10～10:30 四国学院大学 メジャー制度の導入

杉本 孝作(四国学院大学)

10:30～10:40 休憩

10:40～11:00 継続的・組織的な学士課程教育の見直しをおこなうための支援システム開発

小川 勤(山口大学)

11:00～11:20 米国リベラルアーツ・カレッジの現状と特質—概念とカリキュラムに着目して—

福留 東土(広島大学)

11:20～11:50 総合討論

部会3 高大連携・接続

司 会：小山悦司（倉敷芸術科学大学）・川嶋太津夫（神戸大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 24 教室

9:30～9:50 短期大学入学者の学力と進学アスピレーションに関する実証的研究ー地域の視点からー
三好 登（広島大学大学院）

9:50～10:10 島根大学における補完教育の改善とプログラム化
雨森 聡（島根大学）

10:10～10:30 AO 入試合格者に対する入学前学習課題としての大学入試センター試験受験の試み
出光 直樹（横浜市立大学）

10:30～10:40 休憩

10:40～11:00 対等な立場から設計された高大連携授業の特徴ー京都公立高校での試みー
筒井 洋一（京都精華大学）

11:00～11:20 専門高校および総合学科高校からの大学接続の現状と課題
大久保 敦（大阪市立大学）

11:20～11:50 総合討論

部会4 教育方法

司 会：松下佳代（京都大学）・青野透（金沢大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 31 教室

9:30～9:50 批評的態度の養成に関する一考察ー学生リーダー養成プログラムを事例としてー
岸岡 洋介、秦 敬治、泉谷 道子、山内 一祥（愛媛大学）

9:50～10:10 アクティブラーニング形態の授業実践におけるグループ学習の特質
大山 牧子（京都大学）

10:10～10:30 クリティカルシンキングをあらゆる学問分野でどのように教えるか
久保田 祐歌（名古屋大学）

10:30～10:40 休憩

10:40～11:00 参画型学習モデルの設計と実践
竹村 哲（富山大学）

11:00～11:20 地域社会と連携した、課題意識を育む帰納的教育手法の展開ー研究過程との類似性を意識してー

住吉 広行（松本大学）

11:20～11:50 総合討論

部会5 日本語教育・初年次教育①

司 会：加藤かおり（新潟大学）・井下千以子（桜美林大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 34 教室

9:30～9:50 愛媛県立医療技術大学における“初年次教育”の取り組み
澤田 忠幸（愛媛県立医療技術大学）

9:50～10:10 様々な「文章表現」の理論・視点と「文章表現科目」設計の具体的プロセス
成田 秀夫（学校法人河合塾）、中村 博幸（京都文教大学）、
大島 弥生（東京海洋大学）、真下 知子（京都文教短期大学）

- 10:10～10:30 短大型入学前教育科目「コミュニケーションリテラシー」の構築
小棹 理子 (ソニー学園 湘北短期大学)
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 意欲を高めるための初年次教育の試み (その2)
西川 真理子 (甲子園大学)
- 11:00～11:20 文章表現における What と How とは何か
安岡 高志、井上 史子 (立命館大学)
- 11:20～11:50 総合討論

部会6 職員論・大学運営①

司 会: 本郷優紀子 (桜美林大学) ・ 田中岳 (九州大学)

会 場: 共通教育講義棟 講義 42 教室

- 9:30～9:50 株式会社立大学の大学経営組織の機能と特色
村上 孝弘 (龍谷大学)
- 9:50～10:10 パスファインダーの概念を取り込んだFD ガイドの開発
長澤 多代 (三重大学)、中井 俊樹 (名古屋大学)、
小山 憲司、柴田 佳寿江、峯 澄子 (非会員)
- 10:10～10:30 若手FD 担当者の業務に対する感情に他部局との連携が与える影響
半澤 礼之、田口 真奈 (京都大学)、杉原 真晃 (山形大学)、
村上 正行 (京都外国語大学)
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 学生行動規範は障害学生差別を正当化しているのか: 米国の大学における事例研究と条文の比較検討
宮崎 康支 (大学教育学会会員)
- 11:00～11:20 Institutional Research の必要性和促進の課題 —2009 年ベネッセ全国学部長調査の結果から
沖 清豪 (早稲田大学)、樋口 健 (ベネッセ教育研究開発センター)、
岡田 聡志 (早稲田大学大学院)
- 11:20～11:50 総合討論

部会7 情報教育・理数教育

司 会: 田中每実 (京都大学) ・ 秀島武敏 (桜美林大学)

会 場: 共通教育講義棟 講義 32 教室

- 9:30～9:50 座学中心の情報教育科目に対する文科系学生の学習成果の傾向に関する分析
浅羽 修丈 (北九州市立大学)、廣渡 栄寿、中尾 泰士、佐藤 貴之、
石田 俊一 (非会員)
- 9:50～10:10 e ラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型文章表現授業の実施
富永 敦子 (早稲田大学大学院)
- 10:10～10:30 講義型授業でのグループ討論課題の開発 化学・細胞分子生物学について
西山 宣昭 (金沢大学)
- 10:30～10:40 休憩

- 10:40～11:00 工学系数学基礎教育におけるミニッツペーパーと講義ニュースを中心とした講義双方向性ツールの試み
榊原 暢久（芝浦工業大学）
- 11:00～11:20 物理リメディアルにおける教材開発と教育効果
迫井 裕樹（八戸工業大学）
- 11:20～11:50 総合討論

部会8 授業改善

司会：鳥居朋子（立命館大学）・杉原真晃（山形大学）

会場：共通教育講義棟 講義33教室

- 9:30～9:50 eラーニングを利用した大学授業の3年サイクルモデル
向後 千春（早稲田大学）
- 9:50～10:10 学生の主体的学びを推進する授業改善：橋本メソッドと山田メソッド導入と工夫
清水 亮（三重中京大学）
- 10:10～10:30 多様な観点から考え巡らす試みー音楽大学における教養教育の一事例からー
飯野 幹夫（国立音楽大学）
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 遠隔授業システムを用いた授業デザインと受講者の評価
細川 和仁（秋田大学）
- 11:00～11:20 大学生の受講マナーに関する意識・実態調査
藤井 輝男（敬愛大学）
- 11:20～11:50 総合討論

11:50～13:10 昼食

13:10～15:30 自由研究発表②（140分）

部会9 学士課程教育②

司会：沖 清豪（早稲田大学）・杉谷祐美子（青山学院大学）

会場：共通教育講義棟 講義23教室

- 13:10～13:30 高等教育「揺籃期」の法科大学と法律専門学校の教育課程比較
萬年山 啓（LEC東京リーガルマインド大学）
- 13:30～13:50 全入時代対応の全学教職員研修
遠山 紘司（神奈川工科大学）
- 13:50～14:10 大学で「きく力」をつける：効果的な実践教育方法をめざして
穂田 照子（桜美林大学）
- 14:10～14:20 休憩
- 14:20～14:40 カリキュラム・マップの理論と実践
鹿住 大助、前田 早苗、白川 優治（千葉大学）
- 14:40～15:00 認知的徒弟制を活用したメンター学修支援ー学士課程教育における学修の実質化を目指してー
森 朋子（島根大学）

15:00～15:30 総合討論

部会 10 日本語教育・初年次教育②

司 会：濱名篤（関西国際大学）・加藤由香里（東京農工大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 34 教室

13:10～13:30 科目連携型初年次教育の試み

松浦 正博、中田 美喜子（広島女学院大学）石井 三恵（非会員）

13:30～13:50 医学部初年次のチュートリアル教育における事前指導の効果

仙石 昌也（愛知医科大学）

13:50～14:10 構造的思考の確立を目指すカリキュラムー論文作成を通して基礎的な思考能力を養うことを目指してー

村上 正行（京都外国語大学）

14:10～14:20 休憩

14:20～14:40 学士力に対応した全学的初年次教育の展開⑥ー授業導入による修学達成度評価、クリンカーイメージの変化ー

南 学、中西 良文、中島 誠、中山 留美子、長濱 文与（三重大学）

14:40～15:00 「学習支援」と「教養」

吉沢 一也（大阪体育大学）

15:00～15:30 総合討論

部会 11 職員論・大学運営②

司 会：足立寛（立教大学）・出光直樹（横浜市立大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 42 教室

13:10～13:30 大学職員の「職員先生」体感プログラムー学生教職員の母校意識向上ー

高橋 真義（桜美林大学）

13:30～13:50 スタッフ・ポートフォリオ導入における効果についての考察

久保 研二、秦 敬治、大竹 奈津子（愛媛大学）

13:50～14:10 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）における SD プログラムの開発手法について

大竹 奈津子、秦 敬治、久保 研二（愛媛大学）

14:10～14:20 休憩

14:20～14:40 教職協働における教務担当職員の役割ー教務担当職員にとっての専門分野は何かー

上西 浩司（鳥羽商船高等専門学校）

14:40～15:00 学習成果可視型シラバス協働作成支援システムの開発：学習成果の可視化への試み

齋藤 聖子（大学評価・学位授与機構）

15:00～15:30 総合討論

部会 12 測定・評価

司 会：山内正平（千葉大学）・渡辺達雄（金沢大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 41 教室

13:10～13:30 高等教育機関における正課外教育プログラムの学習成果測定の試み

上田 勇仁（熊本大学大学院）

13:30～13:50 教育プログラムに対する自己評価が反映するもの

串本 剛（東北大学）

- 13:50～14:10 新任教員を対象とした「実践的FD プログラム」の評価
金剛 理恵、井上 史子、安岡 高志、沖 裕貴（立命館大学）
- 14:10～14:20 休憩
- 14:20～14:40 学生リーダーシップ能力の基盤養成 ～愛媛大学リーダーズ・スクールのアウトカム評価から見えてきたもの～
泉谷 道子、秦 敬治、山内 一祥、岸岡 洋介（愛媛大学）
- 14:40～15:10 ペーパーテスト以外の評価方法を探る大学英語教育
間中 和歌江（東京純心女子大学）
- 15:00～15:30 総合討論

部会 13 FD・学生参画

司 会：近田政博（名古屋大学）・橋本勝（岡山大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 43 教室

- 13:10～13:30 学生によるFD活動の意義と可能性 ー2回の「学生FDサミット」からー
木野 茂（立命館大学）
- 13:30～13:50 愛媛大学におけるプレFDの取組
山内 一祥（愛媛大学）
- 13:50～14:10 学生研修用ゲーミングツール「クロスロード-学生生活編-」の開発と成果
家島 明彦、山田 剛史（島根大学）
- 14:10～14:20 休憩
- 14:20～14:40 四国地区の高等教育機関におけるFDの現状及びニーズの分析
城間 祥子（愛媛大学）
- 14:10～14:40 教職員の職能開発（FD・SD）に関する実証的研究 ー金沢大・北陸先端大の教育研究活動支援事業を通してー
林 透（北陸先端科学技術大学院大学）、青野 透（金沢大学）
- 15:00～15:30 総合討論

部会 14 学生支援

司 会：田中義郎（桜美林大学）・圓月 勝博（同志社大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 45 教室

- 13:10～13:30 大学における学生支援活動の変容と実態についてー日米比較の視点から事例を見るー
小貫 有紀子（九州大学）
- 13:30～13:50 学生支援の現状と課題
川島 啓二（国立教育政策研究所）、沖 清豪（早稲田大学）、小貫 有紀子（九州大学）、串本 剛（東北大学）、小島 佐恵子（北里大学）、田中 岳（九州大学）、秦敬治（愛媛大学）、藤江 陽子（非会員）、望月 由起（横浜国立大学）
- 13:50～14:10 大学生の中退
田尻 慎太郎（嘉悦大学）
- 14:10～14:20 休憩
- 14:20～14:40 大学独自奨学金の現状と活用策の検討

岩崎 保道（同志社大学大学院修了生）

14:40～15:00 教職員の発達障害学生に関する認識を高める FD・SD

ーRISTEX の組織的な研究を背景にー

青野 透（金沢大学）

15:00～15:30 総合討論

部会 15 大学教育と教養

司 会：坂井昭宏（桜美林大学）・立川明（高知大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 44 教室

13:10～13:30 大学教育におけるロールレタリング導入の試み 2

佐瀬 竜一（大阪国際大学）

13:30～13:50 教養教育という視点から見た『TOEIC(R) テスト新公式問題集』

加藤 知子（星城大学）

13:50～14:10 教養と修養の思想史的意味について

加藤 恒男（至学館大学）

14:10～14:20 休憩

14:20～14:40 正課外活動に積極的に取り組む学生たちの交流機会 ーWAVOC 調査を通じてー

河井 亨（京都大学大学院）

14:40～15:10 総合討論

部会 16 大学教授職

司 会：山野井敦徳（くらしき作陽大学）・福留東土（広島大学）

会 場：共通教育講義棟 講義 21 教室

13:10～13:30 我が国の若手研究者・教育者養成の再構築

北野 秋男（日本大学）

13:30～13:50 米国大学の CASTL プログラムに関する研究ー3 教授の SoTL 実践の比較考察からの示唆

吉良 直（日本教育大学院大学）

13:50～14:10 英国における組織的な大学教員の専門職能開発

加藤 かおり（新潟大学）

14:10～14:20 休憩

14:20～14:40 フランスの大学教員の職能開発に関する政策と制度

夏目 達也（名古屋大学）

14:40～15:10 総合討論

15:10～16:00 移 動（バス・徒歩にて ひめぎんホールへ）

16:00～17:00 総 会 議長：小笠原正明 大学教育学会長（ひめぎんホール）

17:00～17:10 挨拶 柳澤康信 愛媛大学長（ひめぎんホール）

17:10～17:20 休 憩

17:20～18:20 基調講演

司 会：小林直人（大会実行副委員長）

会 場：ひめぎんホール

演 題：「大学教育における地方性と世界性」

講 師：小笠原正明 大学教育学会長

18:20～ 移 動 （ひめぎんホール2階 真珠の間へ）

18:30～20:00 懇親会 （真珠の間）

第2日 6月6日（日）

8:30～ 受 付

9:00～12:00 シンポジウム（南加記念ホール・グリーンホール）

「地域社会と大学」

趣 旨： 18歳人口の減少と経済状況の悪化という厳しい環境の下で、地方における大学のおかれた環境は厳しさを増している。学生の確保や多様化する学生への対応に苦慮する中で、質保証についての要請は高まり、こうした変化に対応を求められ、就職状況の悪化にも対策を立てていかなければならない。他方、高齢化、過疎化、税収減などの問題に直面する地域も数多くあり、地域についての理解を持った教職員や学生を抱える地元の大学に対し、地域振興、地域文化など様々な側面での期待は高まってきているという側面もある。こうした難しい状況の下で、地域社会と大学の新たな関係をどのように考えていくかが本シンポジウムのテーマである。両者の関係は、これまでは共存・共栄という抽象的な在り方を掲げるにとどまってきたが、地方における大学の閉鎖や移転といった事例も現実になってきており、地域の発展（衰退）と大学の発展（淘汰）など両者の関係が連動する可能性が具体的に高まりつつある。地域と大学の関係は、これまで以上に地域社会にとっても重視されると考えられる一方、大学にとっての教育資源あるいは教育研究上のパートナーとしての地域社会（行政、産業界、地域住民等を含む）の重要性も高まっている。今大会テーマである「大学の存在意義（レゾナードール）」の中でも、特に「地域社会」と「大学」の関係に焦点を当て、大学の存在意義について、文部行政、地域社会、大学の立場からの意見をもとに討議していく。

シンポジスト：小松 親次郎（文部科学省大臣官房審議官）

濱名 篤（関西国際大学長 大会企画委員長）

柳澤 康信（愛媛大学学長）

（五十音順で記載しております。）

コメンテーター：西井 泰彦（学校法人京都学園理事長）

コーディネーター：秦 敬治（愛媛大学）

12:00～13:00 昼 食

13:00～15:30 ラウンドテーブル（共通教育講義棟）

テーブル1 「ライティング教育を基点にした学習支援とFD活動の展開(2)」

会場：共通教育講義棟 講22 教室(定員50名)

企画者：井下 千以子(桜美林大学)、井下 理(慶應義塾大学)

司会：井下 理(慶應義塾大学)、柴原 宜幸(日本橋学館大学)

報告者：田部井 潤(東京国際大学)、土持 法一(帝京大学)、井下 千以子(桜美林大学)

企画概要：日本と北米におけるライティングセンター、学習支援センター、大学図書館の訪問調査を通じて、明らかになった現状を報告し、ライティング教育の充実に向けた課題について議論する。特に、次の3つの観点から、学士課程4年間を支える包括的で統合的な支援のあり方について、FD・SD活動と絡めて検討を行う。①ライティング教育に関わる多様な学習支援体制に関する概念整理、②ライティングセンターの組織論的位置づけ、③ライティングにおける剽窃の問題。

テーブル2 内部質保証システム構築に向けた教学IRとFDの連動

会場：共通教育講義棟 講23 教室(定員50名)

企画者：鳥居 朋子(立命館大学)

報告者：池田 輝政(名城大学)、山田 剛史(島根大学)、森 雅生(九州大学)

企画概要：大学の内部質保証システムの構築をめざす取組の一環として、教学領域のIRに基づくFDについて議論を深める。IRとFDの連動のあり方は個々の大学の文脈に応じることが実質的な教育改善にとって重要である。そこで、国・私の二大学(島根・立命館)のFDセンターが進める学生調査の実践を手がかりに、IRとFDの連動に向けたアプローチについて論じる。また、間接評価としての学生調査の結果と直接評価としての教務データのリンケージの観点から、既存の教務データベースが準備することや、新たに設定すべき大学情報ITの課題を検討する。さらに、大学マネジメントの視点から、以上の取組がいかに内部質保証システムの構築に貢献し得るのかを議論する。

テーブル3 高等教育開発の課題と組織化

会場：共通教育講義棟 講21 教室(定員190名)

企画者：川島 啓二(国立教育政策研究所)

報告者：沖 裕貴(立命館大学)、加藤 かおり(新潟大学)、佐藤 浩章(愛媛大学)

企画概要：学士課程教育改革を中心とする大学教育改善のうねりは、授業レベルの研修にとどまらず、プログラム・レベル、制度・組織レベルを含んで、システム的な「高等教育開発」を求めている。このような広がりと深まりを見せている大学教育改善の取組と活動について、背景となる哲学や理念、研修プログラムの開発と普及、専門スタッフの在り方やその育成、ひいては資格制度の検討などの課題が山積しており、それらを社会的に受けとめる公的な基盤構築が必要な段階に至っている。欧米においては、POD(アメリカ)、SEDA(イギリス)などの専門組織があり、大会等への日本人参加者も増えてきている。日本における組織化とその役割について考えたい。

テーブル4 共通教育のデザインとマネジメント

会場：共通教育講義棟 講31 教室(定員90名)

企画者：吉永 契一郎(東京農工大学)

報告者：小山 悦司(倉敷芸術科学大学)、中村 博幸(京都文教大学)、古畑 徹(金沢大学)、
山内 正平(千葉大学)、吉田 香奈(山口大学)、佐々木 一也(立教大学)、
木本 尚美(広島県立大学)

企画概要：共通教育カリキュラムの課題は、大学の類型により三つあると思われる。一つは国立大学理系を中心に専門教育の高度化が起り学部・学科完結志向が高まっていること、もう一つは私立大学文系を中心に専門教育の希薄化が起り学位の種類が多様化していること、そして、最後は職業人養成に特化した大学・学部において教養教育の再定義が必要になっていることである。さらに、いずれの類型においても、既存のディシプリンに対応しないスキル教育やキャリア教育が浸透している。本ラウンド

テーブルにおいては、いくつかの事例を参考に会員が所属する大学における共通教育の様子について意見交換を行い、来年度に予定している全国調査の参考にしたい。

テーブル5 学生とともに進めるFD

会 場：共通教育講義棟 講33 教室（定員 50 名）

企画者：木野 茂（立命館大学）

報告者：大崎 雄二（法政大学）、梅村 修（追手門学院大学）、服部 憲児（大阪大学）

企画概要：2009 年 8 月に立命館大学の学生FDスタッフの呼びかけで第1回「学生FD サミット」を開催し、参加者は26 大学 100 名に上ったが、さらに学生FD 活動を各大学に広め、相互の活動の交流を目指して、2 回目のサミットを2010 年2 月に開催したところ、大学数も参加者数も増え、38 大学 180 名に上った。

従来の大学や教職員だけのFD 活動に学生の視点からの活動をリンクすることにより、FD 活動全体を活性化するとともに、FD 活動自体をバランスよく進めることが期待される。

このラウンドテーブルでは、サミットで学生から活発な活動報告のあった4 大学の教員から報告を受け、学生とともに進めるFD の意義と可能性について参加者とともに考えたい。

テーブル6 ティーチング・ポートフォリオ：導入の意義と可能性

会 場：共通教育講義棟 講32 教室（定員 65 名）

企画者：栗田 佳代子（大学評価・学位授与機構）

報告者：井上 史子（立命館大学）、尾澤 重知（大分大学）、加藤 由香里（東京農工大学）

企画概要：現在、高等教育機関では「教育の質の向上」を目指して、様々なFD プログラムが展開されている。ティーチング・ポートフォリオ(以下、TP)は、日本でも中央教育審議会答申「学士課程教育の構築」で教育業績の記録を整理・活用する仕組みとして紹介され、その導入や活用を検討する機関が増えてきた。しかし、それぞれの機関におけるTP の位置づけや、それを支援するFD 活動のありかたについては模索の段階にある。そこで、現在TP を導入している機関とメンターを中心に、TP 導入の現状を報告し、今後の展開について議論する。また、現在、Web を利用したTP 作成のサポート環境の構築をすすめており、その利用についても紹介する。

テーブル7 教員・職員の関係再考ー緩やかな相互浸透のあり方を探るー

会 場：共通教育講義棟 講24 教室（定員 150 名）

企画者：佐々木 一也（立教大学）、今田 晶子（立教大学）、清水 栄子（公立大学協会）、寺崎 昌男（立教大学）、秦 敬治（愛媛大学）、本郷 優紀子（桜美林大学）

報告者：山田 礼子（同志社大学）、松本 茂（立教大学）、今田 晶子（立教大学）、清水 栄子（公立大学協会）

司会者：羽田 貴史（東北大学）

企画概要：本報告の基盤である課題研究（「SD の新しい地平ー『大学人』の能力開発に向けて」）も3 年目を迎えた。これまでラウンドテーブルやシンポジウムから得た情報や知見は多く、なかでも「教員と職員の間にゆるやかな相互浸透関係(グラデーション)が形成することが重要であり、その萌芽は既に各地の大学に生まれているのではないか」という点は貴重な示唆であったと考えている。この点を中心に、特にアメリカの大学における教員・職員関係を対象として、山田・松本の滞米経験から具体的な事例や見聞を披瀝していただくとともに、4 月に行った全会員対象アンケートの収集状況や結果の一部について、可能な限りの中間報告を行いたい。

テーブル8 「海外体験学習」のスペクトラム：実践の棚卸しと課題整理のための経験交流

会 場：共通教育講義棟 講34 教室（定員 60 名）

企画者：和栗 百恵（福岡女子大学）

報告者：齋藤 百合子（明治学院大学）、田中 義信（大阪女学院大学）、古関 敬浩（早稲田大学）

企画概要：近年多くの大学で導入されるようになった「海外体験学習」。本ラウンドテーブルでは、海外体験学習プログラムあるいは科目の、カリキュラム上の位置づけや学習を促進するための仕掛け・評価、サポート体制、危機管理・安全対策などについていくつかのトピックを簡潔に提示しながら、フロアの方々自身の実践における課題や、今後海外体験学習を導入するにあたって検討すべきポイントなどが整理・共有されるよう、ワークショップ形式で実施する。なお、企画者・報告者は、それぞれ教員、職員、受け入れ側、あるいはそのハイブリッド型として「海外体験学習」にかかわってきており、フロアからも多様な視点が提供されることを期待している。

テーブル9 大学職員の能力開発と採用 ―大学院課程で学ぶ―

会 場：共通教育講義棟 講41 教室（定員 90 名）

企画者：高野 篤子（秋田大学）

報告者：岩田 恭（育英短期大学）、上田 理子（札幌市立大学）、田中 岳（九州大学）、
秦 敬治（愛媛大学）、深野 政之（京都FD 開発推進センター）

企画概要：現職の大学職員の中には大学院課程で学び、自己研鑽を図る者が増えている。答申では「大学院等で専門的教育を受けた職員が相当程度存することが、職員と教員とが協働して実りある大学改革を実行していく上で必要」（文部科学省、2008 年）とされている。

このラウンドテーブルでは、カウンセラー、司書といった特定領域の専門職ではなく、幅広く一般の大学職員を対象とし、大学院課程で獲得できる知識・スキル・マインドとは何か、それらを身に付けることが仕事やキャリアにどのように結びつくのかを論じてみたい。現職の職員で、職場からの派遣に先んじて、自ら修士課程さらに博士課程へ進学した会員たちからの報告を予定している。

テーブル10 保健医療福祉系大学における教養教育の問題 ―教養教育と専門教育とのつながり―

会 場：共通教育講義棟 講42 教室（定員 65 名）

企画者：小野 滋男（北海道医療大学）

報告者：福井 由理子（東京女子医科大学）、浅沼 優子（岩手県立大学）、
山岡 由美子（神戸学院大学）、志水 幸（北海道医療大学）、堀井 泰明（天使大学）、
森元 拓（北海道医療大学）

企画概要：近年激増している保健医療福祉系大学、学部、学科等における教養教育の問題を取りあげる。今回は、「教養教育と専門教育とのつながり」という小テーマに沿って、4 つの領域（医学・歯学、看護、薬学、福祉）から発表を行う。発表者それぞれが所属する大学の教育組織やカリキュラム、科目等の面でのつながりの実状や問題点を紹介する中で、議論を深めていく。討議内容としては、学部統合カリキュラムにおける低学年次の科目展開や教養教育の実施状況など、また保健医療福祉系大学に特有な医療人教育の内容などを取りあげる。教育組織の編成や運営、カリキュラムや科目等の開発、開拓なども今後の検討課題としていく。

テーブル11 一般教育の知的遺産を活かす（その2）

会 場：共通教育講義棟 講43 教室（定員 50 名）

企画者：志津木 敬（広島大学）

報告者：志津木 敬（広島大学）、竹下 賢（関西大学）、丹生 久吉（三重大学）、坂入 明（東京家政大学）、山本 伸也（関西学院大学）

企画概要：一般教育研究は、CIE 関係者が交わっていた General Cultural Education の解明から始まりました。General Cultural Education は、文化的停滞の克服であります。そこからは、地域社会における一般教育の知的遺産の適応という発想も含まれることはいまでもありません。

地域社会における一般教育の知的遺産の適応という発想は、おのずと有限性と普遍性の狭間が導かれます。そこで、本ラウンドテーブルは、「人間と生命」というサブテーマの下に、ヒトの進化や歴史的な取り組みなどを手掛かりにしつつ迫ってみたいと思います。

テーブル12 教育＝研究一体性論の再検討 ―21世紀型リベラルアーツの再構築(2)

会場：共通教育講義棟 講44教室(定員60名)

企画者：坂井 昭宏(桜美林大学)

報告者：田中 每実(京都大学)、飯吉 弘子(大阪市立大学)

企画概要：大学の基本的役割が研究と教育とあることは自明の理である。では、両者の関係をどう捉えるか。古くは研究と教育の一体性が強調された。よい研究者でなければ、よい教育者たりえない。他方、大衆化以降、研究と教育の機能的分離が主張され、大学の組織も研究組織(学系)と教育組織(学群)とへ分割された。現在では、こうした理解が一般的であるかのようなのである。この考え方にも一定の意味があった。大衆化状況における教育不在という現実に対して、教育機能の重要性を再認識させたからである。しかし、時代がどうであれ、よい研究者でなければ、よい教育者たりえない。本ラウンドテーブルでは、両者の関係をユニバーサル・アクセスと大学教員個人という条件の下で解明したい。

テーブル13 学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅱ ―大学職員のコミュニケーション力向上―

会場：共通教育講義棟 講35教室(定員190名)

企画者：高橋 真義(桜美林大学)

報告者：高橋 真義(桜美林大学) 塩崎 俊彦(高知大学)、中村 拓昭(九州産業大学)、
米田 敬子(桜美林大学)

企画概要：構造的な不況、就職難、少子化による受験生の激減など、大学を取り巻く環境の激変の仲、学生は大学の活きた「虎の子」ともいえる資産であり、学生を元気にできない大学は、淘汰される可能性が高くなるだろう。

教員と職員は、学生という資産を活かすために、互いの持てる力を発揮しなければならず、加えて、職員は教員も共に活かすことにより、大学は輝きを増すこととなる。教員とのパートナーシップを保ち、学生の可能性を最大限に引き出すためにも、大学職員には、高いコミュニケーション能力が求められるところである。

大学職員研修において、コミュニケーション力向上の成果を上げている「自己表現・評価トレーニング」の事例発表とともに、これらの実践から得られたデータより、コミュニケーション力養成としての自己表現・評価トレーニングの尺度の検証をいたします。大学職員がファシリテーターを務め、トレーニング簡略版とディスカッションをおこないます。

テーブル14 授業方法としてのワークショップ・シリーズ3

―アイデアや発想を豊かにするマインドマップの手法を学ぶ―

会場：共通教育講義棟 講45教室(定員190名)

企画者：筒井 洋一(京都精華大学)

報告者：筒井 洋一(京都精華大学)、中村 恵子(クリエイティブK 代表)

企画概要：このテーブルは、一昨年から始まり、今年で三年目である。

ここでは、実習を主体にした参加型ワークショップの様々な手法を取り上げて、参加者と一緒に体験的に学び、相互の学びを創発することを目指す。

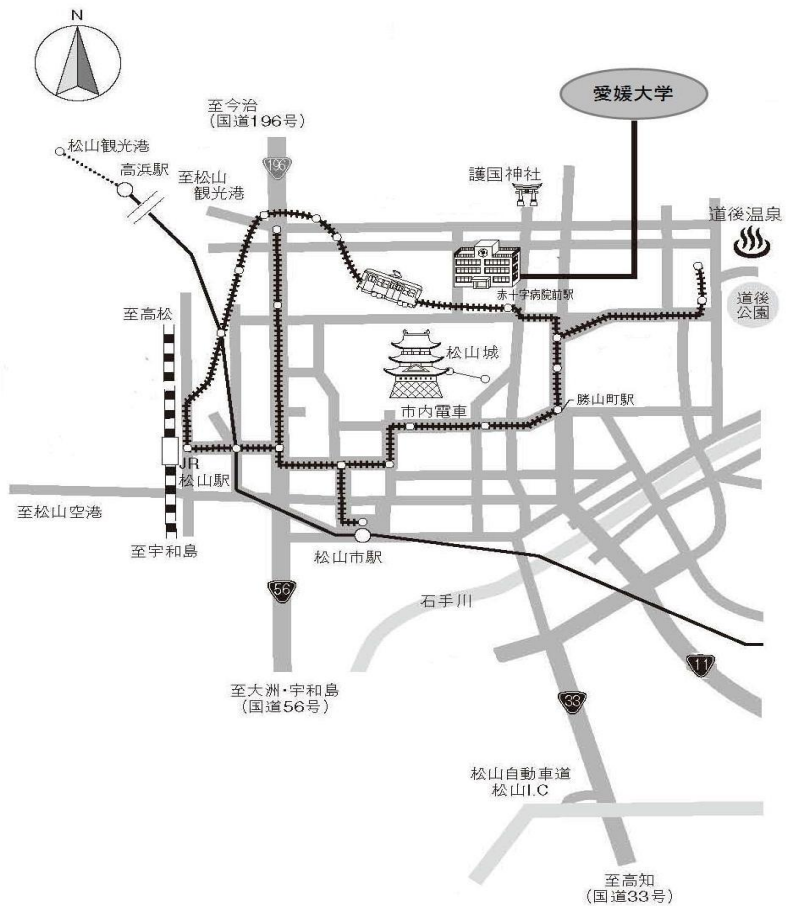
本年は、豊かな発想やアイデアを生み出す手法としてマインドマップを取り上げる。たとえば、テーマの絞り込みにあたって、最初にアイデアを発散させて、徐々にアイデアを収束させていく。マインドマップという発想や思いつきをビジュアル化する手法は、アイデアを発散させる過程において大きな役割を果たす。

その手法を体験的に学びあいながら、創造的なアイデアを生み出す手法について語り合う。

15:40～ 会長閉会挨拶・次期会場挨拶(南加記念ホール・グリーンホール)

〈 大会参加要領 〉

1. 会場:愛媛大学城北キャンパスまでの交通案内



・フェリーをご利用の方

松山観光港から

伊予鉄バス（道後温泉行き）乗車 40 分 県民文化会館前下車 徒歩 10～15 分 料金 600 円

タクシー約 40 分 3000 円～4000 円

・飛行機をご利用の方

松山空港から

リムジンバス（道後温泉行き）乗車 30 分 県民文化会館前下車 徒歩 10～15 分 料金 450 円

タクシー約 30 分 2500 円～3000 円

・電車、高速バスをご利用の方

松山 J R 駅から

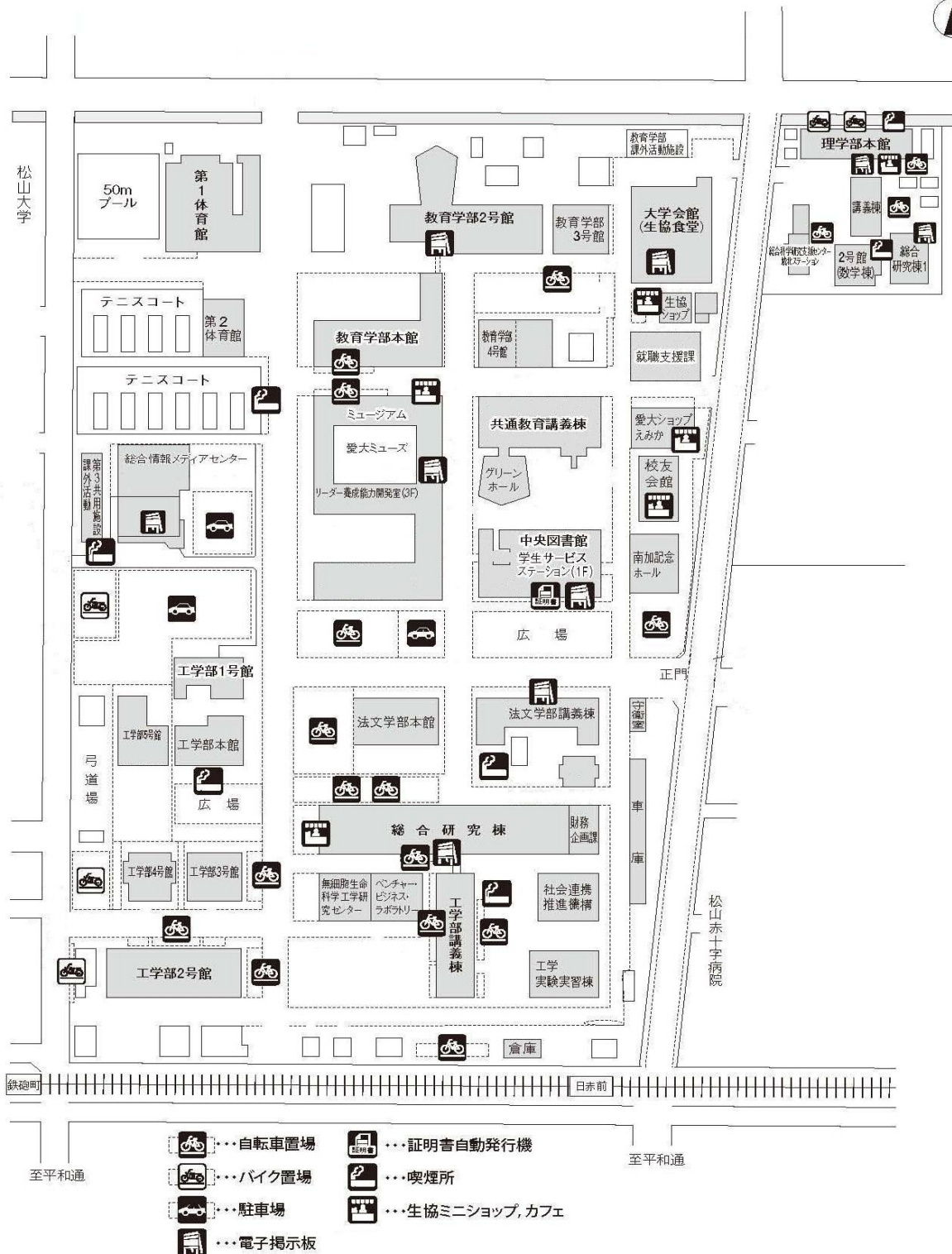
市電 環状線①に乗車 乗車 12 分 日赤前下車 徒歩 3 分 料金 150 円

松山市駅から

市電 環状線①または②に乗車 乗車 15 分 日赤前下車 徒歩 3 分 料金 150 円

キャンパスの案内

城北地区案内図



2. 大会参加申し込み

大会に参加される方は、同封の振替用紙に必要事項をご記入の上、**5月7日（金）**までにご入金ください。締め切り以降の申し込みは、大会当日、会場校にてお願いします。非会員の方も参加できますので、郵便局備え付けの青字の「払込取扱票」をご利用になり、「通信欄」に必要事項をご記入の上、お申し込みください。

必要事項

- ①所属、②e メールアドレス、③申し込み項目（参加費等）、④ご住所、
⑤お名前（*団体会員の場合にも必ず来場する個人名をご記入ください）、⑥会員番号、
⑦電話番号

申し込み項目（参加費等）

*大会参加費（発表要旨集録を含む）	一般	4,000 円（当日受付 5,000 円）
	学生	3,000 円（当日受付 5,000 円）
*懇親会費		4,500 円（当日受付 5,000 円）

*『発表要旨集』のみ（送料込み）		2,000 円

振替口座

口座名：大学教育学会第32回大会実行委員会

口座番号：01600-8-45027

- ・お払込みいただいた大会参加費等は、理由を問わず返却いたしません。予めご了承ください。
大会参加費等を払込みながらご欠席の場合は、後日、発表要旨集録をお送りいたします。
- ・領収書が必要な方には大会当日お渡し致します。受付にてお申し付けください。

3. 大会実行委員会からのお願い

- ・今回のラウンドテーブルは定員を設けております。定員超過の場合は、事前申し込みをいただいている方から優先的に入室していただくこととなります。大会HPより、事前申し込みを5月21日（金）までにお願ひします。インターネットの環境がない方は、大学教育学会第32回大会事務局までFAX（089-927-8922）にて①ご氏名②ご所属大学名③ご希望のラウンドテーブル名をお知らせいただきますようお願いいたします。
- ・本学会大会では、新しく「新会員及び初めて参加される方のためのオリエンテーション」を設けました。オリエンテーションでは、学会の新会員及び初めて学会大会に参加される方々を歓迎し、本学会の理念、学会大会の意義等の簡単なガイダンスをいたしますので、ぜひご参加ください。
- ・発表資料等は、各自でご用意ください。自由研究発表の発表時間（質疑応答含む）は20分です。
- ・各会場にプロジェクタ（windows XP 対応）は準備いたしますが、PCは各自でご用意ください。
- ・会場には、駐車スペースはありません。公共の交通機関をご利用ください。
- ・本大会ではお弁当の用意は致しません。5日（土）と6日（日）の両日とも生協食堂が営業しておりますのでご利用ください。

=事務局から=

● 会費納入のお願い

今年度(2010 年度)の会費の請求書、郵便払込取扱票を同封させていただきました。5月31日(月)までにご入金ください。領収証につきましては、郵便払込票の受領証をもって替えさせていただきます。なお、入金状況についてご不明な方は、メールもしくはFAXにて4桁の会員番号を明記の上、お問い合わせください。追って、返答させていただきます。

また、今回は学会大会参加申込用の郵便払込取扱票も同封されていますので、おまちがえないようご注意ください。

年会費等郵便振替口座 00120-4-178891 「大学教育学会」

ご入金はなるべく郵便払込取扱票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、お手数でもご入金前に必ず事務局までその旨ご連絡ください。

● 住所等変更の届出について(お願い)

4月になり、所属変更およびそれにとりまなう転居をされる方も多いと思います。何かとお忙しいと思いますが、事務局への登録内容変更の届出につきましても速やかにお願ひいたします。

また、学生会員で入会された方は、就職後、その旨ご連絡くださいますようお願ひいたします。学生会員から個人会員へと登録内容を更新させていただきます。

● 2010 年度課題研究集会について

2010 年度課題研究集会は、11 月 27 日(土)～28 日(日)
武庫川女子大学 中央キャンパスにて開催予定です。

● 住所変更の届出についてのお願い

定期刊行物は、おもにヤマトメール便を利用しているため、転居にとりまなう転送はされず、数週間後、事務局へ返送されてまいります。事情をご考慮いただき、ご登録内容に変更が生じた場合は、事務局までご連絡くださいますようお願ひ申し上げます。

大学教育学会事務局

〒229-0006 神奈川県相模原市淵野辺 4-16-1

桜美林大学淵野辺キャンパス 3階

Tel/ Fax : (042)704-7014

E-mail : ungakkai@gmail.com

URL : <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/menu.htm>



【大会事務局】

〒790-8577 松山市文京町3
愛媛大学教育・学生支援機構内
大学教育学会第32回大会実行委員会
TEL: 089-927-8900
E-mail: lges@ac.rsol.jp

【学会事務局】

〒229-0006 神奈川県相模原市淵野辺 4-16-1
桜美林大学淵野辺キャンパス 3 階
TEL/FAX 042-704-7014
E-mail ungakkai@gmail.com
URL <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/menu.hum>